

法華寺境内の調査(平城第645次)

今回の調査は、消火設備の改修にともなうもので、2022年1月17日から2月9日まで実施しました。調査地は、本堂の北側(北区・約2.4㎡)と南側(南区・12㎡)の2ヵ所です。

このうち南区の東北隅では、2003年の発掘調査(第363次)でみつかった古代の掘立柱建物の柱穴を再検出しました。南区東南隅付近にも同じ建物の柱穴があると予想されましたが、残念ながら今回の調査区内ではみつかりませんでした。

代わりに東南隅では、池の一部とみられる落ち込みを確認しました。寛政3年(1791)刊の『大和名所図会』によると、現在の護摩堂を取り巻く池は、かつて鐘樓の北側まで大きく広がっており、これまでの発掘調査で、その岸と推定される遺構がみつかっていました。今回の落ち込みも、かつての池の西北岸にあたるとみられます。

このほか、古代の瓦が多量に廃棄された土坑がみつかりました。一緒に出土した土器の年代観から平安時代前半の遺構とみられ、周辺の瓦葺建物の修理や廃絶に関わる可能性があります。

小規模な調査でしたが、近世の景観復元や平安時代の様相解明につながる、重要な情報を得ることができました。(都城発掘調査部 桑田 訓也)



南区全景(北西から、奥が鐘樓、右手が護摩堂)

なぶんけんチャンネル発掘ドキュメンタリー

2021年度も新型コロナウイルスの猛威はとどまるところを知らず、寄せては返す波のように、流行の拡大と沈静化を繰り返しました。

都城発掘調査部平城地区では、従来のような発掘調査の現地説明会が開催できない場合の代替策として、また、感染拡大防止のための人流抑制策の一環として、YouTubeなぶんけんチャンネルによる発掘調査ドキュメンタリーを制作し、公開してきました。

実際に発掘調査を担当する研究員がビデオカメラを片手に撮影をおこなっています。様々な作業風景や悩みながら掘り進める姿が映し出され、発掘調査の様子がリアルに伝わってくると思います。動画撮影や編集作業には不慣れな部分もありますが、その点は寛容にご視聴いただければ幸いです。

これまで公開した動画は、最新の平城宮や興福寺の発掘調査をはじめ、過去の調査を紹介したものもあります。これまでは、なかなかみることができなかった発掘調査の舞台裏に興味を示してくださる視聴者もいらっしゃいます。まだご覧になったことがない方も、ぜひ奈文研ホームページを開くと出てくる「なぶんけんチャンネル」のバナーをクリックするか、インターネットで「なぶんけんチャンネル」と検索してみてください。

コロナ禍は、我々の研究活動、特に講演会や展覧会、現地説明会等、一般の方々と接する活動をいちじるしく阻害しました。いっぽうで、YouTubeやオンラインでの動画配信など、新しい情報発信のあり方を考える良い機会を与えてくれました。今後もYouTubeに限らず、現代社会のニーズに応える情報発信にチャレンジし、たくさんの方々に発掘調査の成果を、より身近に楽しんでいただけるよう努めてまいります。(都城発掘調査部 神野 恵)



YouTubeにて公開中の興福寺の発掘ドキュメンタリー